

学術年会開催にあたって

楠原 洋之 (学術年会長)

この度、第28回HAB研究機構学術年会の年会長を務めることになりました、東京大学大学院薬学系研究科の楠原洋之でございます。

HAB研究機構は、医薬品開発のあらゆる局面で遭遇する実験動物とヒトとの種差の克服を目指して、ヒト組織の創薬研究利用に多大なる貢献をしてきました。近年、低分子化合物主体の従来型の創薬から、抗体や核酸、細胞へと医薬品としてのモダリティは大きく変遷していますが、いずれのモダリティであっても、細胞や実験動物で収集したデータに基づいて、ヒトにおける有効性や安全性に外挿し、予測確率を向上させることは必要不可欠であり、大きな課題となっています。この課題克服のためのアプローチとしては、新規モデル細胞の利用や培養プラットフォームの開発など新たなin vitro 試験系の構築はもとより、実験のアウトカムに対してより精緻で網羅的な分析手法の開発、quantitative systems pharmacology の考え方に代表される種々のデータを数理モデルを介して統合化し、システムとして生物を捉える方法論の開発など、多岐に渡ります。このような背景のもと、今回の年会ではテーマを「医薬品開発を指向したヒトモデル化への挑戦」と設定し、様々な観点から創薬研究に利用可能な先進的な取り組みを紹介することで、皆さんと今後の展望を共有したいと思っています。

1日目には、in vitro 試験系に関する最近の知見として、モデル細胞系の開発、PK, PD, 疾患バイオマーカーを組み込んだ数理モデル解析について、2日目には、バイオマーカーの医薬品開発における活用法や、より精緻な細胞応答の探索を実現化する先進的な方法論を紹介したいと思います。また、これら各シンポジウムの内容に関連して、アカデミア・海外の製薬企業の先生方から、特別講演も複数お願いをしています。

なお、昨年の年会の折、昭和大学上條記念館にてオンラインで開催する旨をご案内していましたが、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、インターネットを活用したオンライン学会として開催いたします。一般演題の発表・ディスカッション時間も設けたいと考えております。ぜひ、沢山の方のご参加をお待ちしております。

Non Profit Organization
Human & Animal Bridging Research Organization

第28回HAB研究機構学術年会

医薬品開発を指向した ヒトモデル化への挑戦

First Circular

ver. 1.0



学術年会長：楠原 洋之
(東京大学大学院薬学系研究科)

日時：2021年6月3日(木)、4日(金)

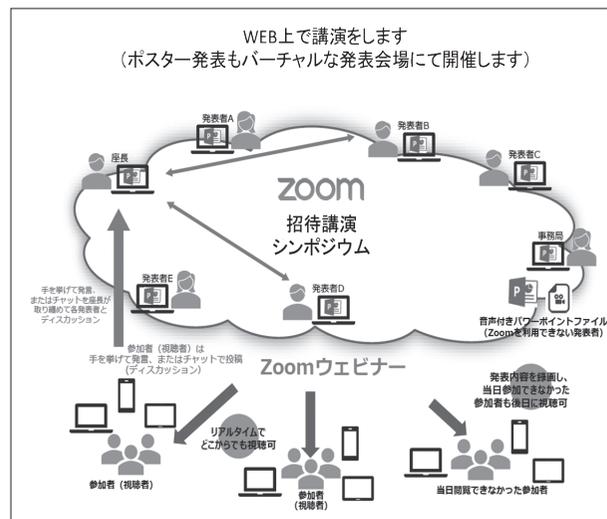
会場：Zoom ウェビナーにてオンライン開催

協賛： 日本薬物動態学会 日本薬理学会
日本臓器保存生物医学学会 日本再生医療学会
化学工学会バイオ部会 日本動物実験代替法学会
後援： 日本毒性学会 日本臨床薬理学会

(順不同・予定を含む)

最新情報は特設サイトで公開予定です。
ホームページからのリンクを是非ご利用下さい。

2021年2月印刷



本年会は Zoom Webinar を使ったネット学術集会です。
視聴方法については第28回HAB研究機構学術年会専用ホームページ内のZoom ウェビナー視聴方法ページをご参照ください。参加方法の他、質問やコメントの仕方についてもご紹介しております。

第28回HAB研究機構学術年会専用ホームページ内
Zoom ウェビナー視聴方法ページQRコード
<https://society.main.jp/hab/zoom/index.html>



<参加登録費>

(要旨集を含む)

HAB 研究機構正会員： 8,000 円
賛助会員： 8,000 円
非会員： 13,000 円
学 生： 6,000 円

事前参加申込期限：2021年6月2日

※郵便振込をご希望の場合はHAB研究機構事務局までお問い合わせ下さい。

<お問い合わせ・お申込み先>

特定非営利活動法人HAB研究機構

〒272-8513
千葉県市川市菅野5-11-13 市川総合病院角膜炎センター内
TEL 047-329-3563 FAX 047-329-3565
E-mail secretariat@hab.or.jp URL <http://www.hab.or.jp>

第28回 HAB 研究機構学術年会 – プログラム概要 –

6月3日（木）

9:10-10:10 招待講演 I

ヒト臓器、細胞を用いた研究は医薬品開発に必須である；-ヒト *in vivo*, ヒト細胞, 遺伝子発現系の結果を理論どおり連結できるのか？ -

杉山 雄一（理化学研究所）

10:20-12:20 シンポジウム I

モデル細胞の薬物動態研究・薬効・毒性評価への活用に向けて

エクソソーム・マイクロ NRA と薬物誘導性毒性評価

横井 毅（名古屋大学大学院医学系研究科）

小腸 crypt 由来分化細胞を用いた消化管吸収予測系の開発

前田 和哉（東京大学大学院薬学系研究科）

毒性評価のためのモデル細胞の現状と可能性について

篠澤 忠紘（武田薬品工業株式会社）

ヒト iPS 細胞およびヒト生検由来腸管上皮細胞の開発と創薬応用 水口 裕之（大阪大学大学院）

14:10-15:10 招待講演 II

日本人セルリソースから捉える新たな創薬開発モデルの探索題 阿久津 英憲（成育医療センター）

15:10-17:40 シンポジウム II

モデル解析の進歩が明らかにする新しい地平

Preclinical PK/PD M&S approaches for the antisense oligonucleotide (ASO) and its derivatives

後藤 昭彦（武田薬品工業株式会社）

臨床研究情報を利用した疾患進行あるいは治療のモデリング：中枢神経疾患、COPD、循環器疾患

樋坂 章博（千葉大学大学院薬学研究院）

酵素部位とリガンドの相互作用を考慮した代謝反応解析グリッドテンプレートの開発と利用

山添 康（東北大学名誉教授, 内閣府食品安全委員会シニアフェロー）

心臓シミュレータを用いた薬剤の催不整脈リスク評価

岡田 純一（東京大学フューチャーセンター推進機構）

6月4日（金）

9:00-10:00 招待講演 III

Advances in Liquid Biopsy Approaches to Support Clinical Drug Interaction Assessment & Subject Phenotyping David A. Rodrigues (Pfizer, Inc)

10:10-12:10 シンポジウム III

医薬品開発研究に適用できるバイオマーカー研究

リキッドバイオプシーを用いた薬物動態個人差の予測とテーラーメイド医療への応用

廣田 豪（九州大学薬学研究院）

ファーマコゲノミクスに基づく重症副作用の予測

越田 泰誠（理化学研究所ファーマコゲノミクス研究チーム）

抗悪性腫瘍薬の効果・毒性と遊離形血漿中濃度

藤田 健一（昭和大学薬学部）

予測に基づく効率的な医薬品開発

寺尾 公男（中外製薬株式会社）

13:50-14:50 招待講演 IV

認知症に対する創薬研究の現状と問題点

富田 泰輔（東京大学大学院薬学系研究科）

15:00-17:00 シンポジウム IV

1 細胞レベルの微小空間解析による新たな生理機能の理解

質量分析を基盤とした 1 細胞分子フェノタイピング技術の開発

馬場 健史（九州大学生体防御医学研究所）

最先端量子ナノ材料による幹細胞・エクソソーム蛍光イメージング

湯川 博（名古屋大学未来社会創造機構 ナノライフシステム研究所）

On-chip Cellomics : Reconstructive Understanding of Epigenetic Information in Cellular Networks from Algebraic and Geometric Perspectives

安田 賢二（早稲田大学理工学術院）

マイクロ流路技術を利用した W/O ドレップレット・マイクロゲルドロップ作製とスクリーニングへの応用（仮）

演者交渉中

※敬称略

※演者、演題ならびに講演順は変更になる場合がございます

第28回 HAB 研究機構学術年会
組織委員

石田 誠一（崇城大学）

伊藤 晃成（千葉大学）

梅原 健（大塚製薬株式会社）

加藤 将夫（金沢大学）

楠原 洋之（東京大学）

千葉 康司（横浜薬科大学）

樋坂 章博（千葉大学）

平林 英樹（武田薬品工業株式会社）

藤田 健一（昭和大学）

前田 和哉（東京大学）

水口 裕之（大阪大学）

渡邊 伸明（第一三共株式会社）

五十音順

ご案内

一般講演（ポスターセッション）

年會会期中（全日） 別会場にて開催

年會会期中、別会場においてポスターセッションを開催いたします。

日頃の研究成果を共有し、議論していただける場をご用意いたします。両日の昼休憩時には演者とチャットを通じて議論していただくことも可能です。

多くの皆様方のご参加をお待ちしております。

また、発表演題も募集しております。

※詳細はホームページをご確認ください。